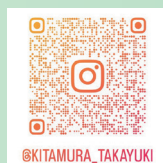


北村たかゆきと一緒に「住むならやっぱり関」を考える通信

コクリエ・セキ

Co-Creation



@KITAMURA_TAKAYUKI

関の魅力を
毎日発信中！



関のニュース

そうだったのか！

2025 初夏 | 第 8 号

こんにちは！ 関市議会議員の北村です。今回は関市のニュースについて、わかりやすく解説します。

ご当地映画補助金 返還請求問題



ご当地映画の補助金について問題となっています。私も令和6年9月議会で一般質問して、「一つの映画の進捗が遅れている。年度末には上映できるように厳正に対応してほしい」と問題視してきました。今回はこの問題について解説します。

(情報は令和7年4月3日のものです)

どんな問題？

関市の観光PRとなる映画への補助金を、2社に交付決定(『怪獣ヤロウ!』、『名もなき池』)し、令和5年度に1000万円、令和6年度に1000万円の計2000万円を各社に交付したが、イロハ社『名もなき池』のほうは、当初の条件が守られないため、関市が補助金の全額返還を求めました。

そもそも、この補助金ってどんな制度？

関市映像作品撮影事業補助金 補助率 = 対象経費の1/2以内

つまり2000万円の補助金を得るためには、4000万円以上の経費となることが必要です

北村コメント

補助金の 事業要件

- ・関市を舞台とし、関市を中心に撮影されること
 - ・令和7年3月末までに、映画を国内映画館で上映すること
 - ・映画は4週間以上有料で公開すること
 - ・関市の知名度向上、観光誘客の経済効果が期待できること
- ※「製作期間」の期間内に、初号試写を実施すること
市の職員等が視聴し、交付決定した内容通りに映画が完成したかどうかの確認を行う

補助金公募後の動き(全員協議会での市の説明より)

R5年5月	市が公募し、2社から応募あり
6月	審査会が行われ、2社とも決定
8月	市が補助金1000万円を支払う(1年目) R6年3月までに撮影完了予定だったが、完了できず
R6年4月頃	イロハ社-監督間の契約解除
9月～10月	市からイロハ社へ通知書(監督変更等の重要な変更について言及し、期日までに上映しなければ補助金を取り消す旨など)を2回送付
10月	イロハ社から補助金変更申請(監督交代・出演者変更が報告される) 刃物まつりで制作発表 撮影(2週間)
11月	市は補助金変更申請を条件付き承認 市は質問状を送付して面談での回答を求めるものの、回答なし
12月	市が補助金1000万円を支払う(2年目)
R7年3月	新聞報道で問題が顕在化 市が補助金返還請求 淡路島と愛媛の2館で上映開始

問題点 1 当初の企画申請書とは全く別物 監督、脚本、出演者、制作会社が代わった R6年4月頃に監督が辞めたため、R5年度の撮影分や台本などは全てお蔵入りに。	問題点 2 R5年度会計報告書類の疑問 ほぼ未撮影にもかかわらず、約2200万円もの支出が報告されている。	問題点 3 未払い問題 様々な関係者から、報酬が未だ支払われていないとの声。
問題点 4 変更申請についての不誠実な対応 市はトラブル報告や公開スケジュールをイロハ社に求めたが、返答は滞った。 北村コメント ただ、市は問題が顕在化していたR6年12月に、回答を待たずに補助金を支払っており、対応にも疑問	問題点 5 関市役所への試写が行われないまま一般上映 R7年3月20日に淡路島で試写会が開催されたが、イロハ社は市へ直前に連絡。	問題点 6 上映館は淡路島と愛媛のみ イロハ社は岐阜の映画館には断られたとの主張。

映画を見てきました



4月上旬、淡路島で上映を見てきました。俳優の演技はとても素晴らしいと思いました。熱さも感じ、娘・嵐子役は新人と書いてありましたが、透明感があり、とても良かったと思います。

ただ、メディア等でも指摘があるように、
・出演者の口の動きと声のズレ
・効果音が大きすぎて、セリフが聞き取れないところがいくつもある
・場面がブツ切りで、内容がつかないなどの違和感を私自身も感じました。

私は「関市をPRしているのか」という観点からの事実を挙げていきます。
・最初に娘(嵐子)の言葉で、モネの池の誕生からの説明がある
・看板が映し出される撮影店舗やスポットは、

関市ではなく、山県市や岐阜市にある場所
・関市の店舗やスポット(関善光寺、板取21世紀の森、関商工高校)には、看板など名前が分かる映像はない(関観光ホテルでも撮影したと聞きましたが、映像はなかった)
・主人公の自宅(墨俣で撮影)として、たまに一瞬インサートされる古民家あいせき
・唐突にセリフ「関の刃物はよく切れる」
・映画の終盤は、刀匠第26代藤原兼房さんが刀をつくるイメージビデオのような映像
・刀鍛冶の本編とモネの池とのつながりが薄く、後半は池は1、2回インサートされる程度
これらのことから、この映画を見て、関市に観光に行きたくなると聞かれれば、難しいと答えざるを得ません。

『怪獣ヤロウ!』は大成功！
もう一つのご当地映画『怪獣ヤロウ!』のほうは、

多くの観光客が関市に来られ、映画のパンフレットを持って歩いている人も見かけます。市内のお店はコラボメニューをつくり、売り上げも上がっているそうです。
さらにロケ地マップをつくり、美術セットが見られるスポットも設け、受け入れ体制を盛り上げていっていました。
これは、映画の中でも、それ以外の場でも、ご当地映画の目的を理解して丁寧に作り込まれているからこそだと感じます。

『名もなき池』は、駆け込みで作った印象が拭えませんでした。

私の総括としては、関市のご当地映画事業がダメだったわけではなく、『名もなき池』の準備と内容が、関市をPRするものとしては、ふさわしくなかったということかと思います。